

## 9期 知らなかった あんな話 こんな話 科

### ～そして生きがい再発見～

日時： 令和3年 7月29日（木曜日）

場所： 豊中市地域共生センター （第7回講座）

学習テーマ：「古代から江戸時代までの道～大阪北部を中心にして～」

講師： 前田 豊邦 先生（元大阪教育大学大学院常勤講師）

テーマ： 古代から江戸時代までの道～大阪北部を中心にして～

古代国家の出現に際して本格的な道が出現してくる。それは租庸調の制度、朝廷と各国府・郡衙、国分寺・国分尼寺等との往来による道路が整備され各地との交流が盛んになる。中世になっても荘園の増加と共に道の利用については、古代から継続して盛んである。

五畿内と七道制

五畿内とは（摂津の国、河内の国、和泉の国、大和の国、山城の国）

七道とは（山陽道、山陰道、西海道、南海道、北陸道、中山道、東海道）

江戸時代に入ると江戸を中心にして五街道の整備がなされて参勤交代をはじめ、庶民の社寺への参詣を掲げて参詣道も出現してくる。

五街道とは（東海道、中山道、日光街道、甲州街道、奥州街道）

大阪北部では摂津の国と丹波の国、さらに隣接する国々との交流、また信仰に伴う参詣道の存在を忘れることはできない。

大阪北部地域では江戸時代、能勢の妙見信仰が盛んとなり、講が組まれて団体で参詣するようになってくる。参詣の道中には道標や常夜灯が建立され、休憩場所として茶店（茶所）が設けられた。（茶店の殆どは瓦葺きであったことが判明されている）

妙見信仰

星辰信仰は陰陽道の中心であり、密教では北辰を妙見菩薩とし、北極星・北斗七星を祭り、これを祀ると除災招福の効果があるとされた。「現生利益」

大阪からの主な妙見参詣道

池田市を起点として、長尾道・関明神越道から派生する形で花折道・上杉道等がある。（地図にて説明）

地黄とは薬草のことであった（能勢町に地名がある。地黄城）

午 後

1. みんなのラジオ体操
2. 各班で午前の講義を振り返り討議して代表者が意見発表
3. 班活動

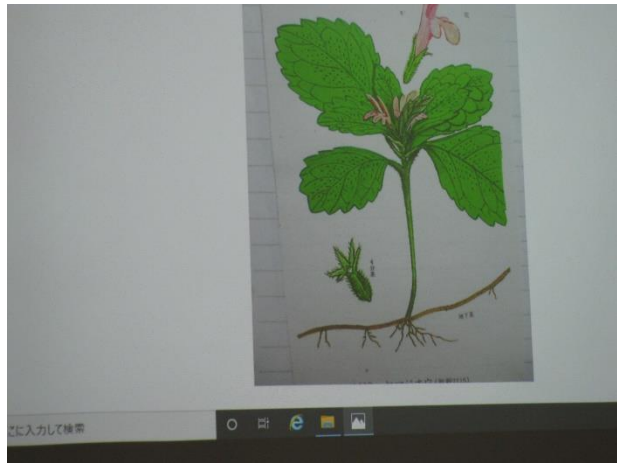
学習成果発表会のテーマ選定・見学予定地等の選定を討議



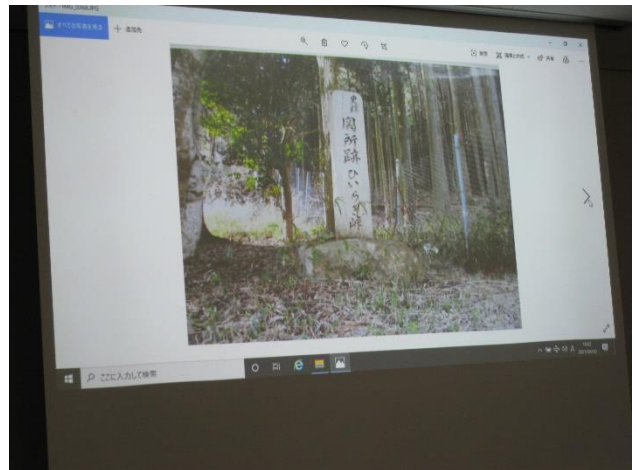
前田先生と講座授業風景



古代の道の跡



地黄



柗峠関所跡の碑（亀岡との境）